

ひのきの木粉を使った
バイオプラスチック製

ひのきのぷら弁当箱

IIAKOYA®

株式会社たつみや

IIAKOYA®

環境意識の高いヨーロッパで海洋プラスチックなどが社会問題化し、
現地クライアントから、環境に配慮した弁当箱を開発してほしいという要望

一方、福島県の木工品メーカー 光大(株) は、すのこや家具などの木製品を製造し、ホームセンター等で販売しています。
製品を加工の際に、機能的で高価なひのきの端材が大量に廃棄されるのがもったいなく、何とか有効活用できないかと思案



[ひのきのぷら](#)



[FIDO](#)



[製品情報](#)



[会社情報](#)

廃材のひのきの木粉とプラスチックを融合させた「ひのきのぷら」の開発に成功



ひのきのぷら[®]

(ヒノキバイオマスプラスチック) が出来上がるまで 



ひのきの森



ひのきの丸太



木工品加工



加工工程で出た
プレーナーくず



プレーナーくずを
荒粉碎



プレーナーくずを
微粉碎



バイオマスペレット



バイオマス
プラスチック製品

ひのきのぷらと弁当箱のコラボレーションの誕生

IIAKOYA®

バイオプラスチックの弁当箱
としてだけでなく、ひのきの
抗菌効果も十分に魅力的

人と森と未来をつなぐ



ひのきの端材を有効活用して
誕生させたひのきのぷら

「ヒノキ」でつくった

ヒノキの
天然抗菌
プロジェクト

バイオマスプラスチック

新しいプラスチック

日本製

**抗菌・消臭
効果が続く**

木工メーカーが製造した「ヒノキ」の木粉と融合したバイオマスプラスチック。高い耐熱性で電子レンジ、食洗機にも対応します。

ひのきのぷら弁当箱はプラスチックの使用量を50%以上抑えたバイオプラスチックの弁当箱で、繰り返し洗って使えるエコなアイテムです。



販売実績 1

大手小売業に環境配慮型商品として当初、採用して頂きました。
しかしながら、コロナ禍に入り、テレワーク等でお弁当箱の需要が大きく減少し、高価格帯のこれらの商品は店頭での売れ行きが振るわず、厳しい状況が強いられました。

販売実績 2

一方で、コロナ禍で飲食店のテイクアウトなどの需要が増え、お弁当容器のゴミが増えるという問題が発生。

繰り返し洗って使うリターナブル（リユース）のお弁当箱でひのきのぷらの素材のコンセプトが合致。

環境に配慮しながら地域や未来を考え、限りある資源を大切にしていこうと、自然豊かな長野県安曇野市で始まった飲食店の持ち帰り容器のリユース事業「ARPAKKE」をはじめ、意識の高い団体や企業から引き合いを頂いています。

ひのきのぷら ストーリー（まとめ）

①木工でひのきの端材が出て、廃棄するのがもったいない



②ひのきの木粉とプラスチックが融合されてひのきのぷらを開発



③バイオプラスチックで抗菌効果のあるひのきのぷらは弁当箱の新素材として有望として2社のコラボレーションで弁当箱を開発



④コロナ禍でテイクアウトなどの使い捨て容器が社会問題に



⑤ひのきのぷらのコンセプトがリターナブル（リユース）のお弁当容器の素材として注目される

(株)たつみやは石川県の伝統工芸山中漆器の技術を活かしてお弁当箱を中心に事業を展開しています。

日本はフードロスの問題もあり、食のリサイクルにおいても日本のお弁当文化はとてもエコでクールな食文化だと再認識します。

ひのきのぷらのお弁当箱によって社会の循環システムに繋げていける商品として評価して頂きましたが、今後も世の中に役立てるようなものづくりに取り組んで参ります。

ご清聴ありがとうございました